

北見工業大学 正会員 ○ 中 岡 良 司
 北見工業大学 正会員 森 弘

1. はじめに

北海道は広大な大地と豊富な自然資源を持つ我国有数の観光レクリエーション地域である。北海道全体の年間の観光客数は約8000万人にも及び観光は北海道の主要産業であるとの認識が定着し始めている。それに伴い、北海道の各市町村は観光レクリエーション開発を有力な地域振興策として積極的に取組んでいる。しかし、その多くは地域性や周辺市町村との連携に欠けた単独開発であることが多い。観光行動は一般に周遊的に発生するので、今後の観光行政を適切に進めるためには現状の観光資源の分布特性を十分把握しながら広域のかつ特色ある観光政策を立案する必要があるであろう。そこで、本研究では観光資源を数量的に収録し市町村単位でその地理的分布を把握するとともに支庁単位や生活圈単位で比較検討を行った。また、観光資源の分布による新たな観光地域区分を設定しその有効性についても検討した。

2. 観光資源

「観光」とは「自己の自由時間の中で、鑑賞、知識、体験、活動、参加、神仏の鼓舞など生活の変化を求める人間の基本的欲求を充足するための行為（レクリエーション）のうち、日常生活圏を離れ、異なった自然、文化などの環境のもとで行おうとする一連の行動（観光政策審議会）」である。従って、地元での日常生活が他方では観光対象となるなど観光資源の範囲は極めて広範囲に及ぶ。我々は一般にその内容を観光ガイドブックによって知るが、本研究で観光資源データの作成に使用した日本交通公社の「新日本ガイド」（昭和57年版）は同種のガイドに比べ以下の特徴を持っている。

- ① 全国を21の地域に分け（北海道はその1つ）知名度や交通の便に関わらずすべての観光物件を市町村単位に分類、表記している。
- ② 主な観光物件にはその規模、構図、色彩など14の要因による因子分析を適用し一定の客観性を持つ4段階の評価を与えている。

本研究では、上記ガイドブックを数量的に分析するため、独自に表-1の観光資源分類体系を設定し北海道の全観光物件を市町村単位で収録した。観光資源は大別して自然そのものとしての自然資源と人為的関わりによる人文資源に分けられ、更に人文資源は一般に歴史的なものや近代的なものに分けられるが、本研究では観光行動に必然的に伴う宿泊施設、交通施設を加えている。その結果、自然資源 766ヶ所、歴史的な人文資源 360ヶ所、近代的人文資源 900ヶ所、宿泊施設 953ヶ所、交通施設 85ヶ所を数え、総計3064ヶ所の観光資源を得た。

表-1 観光資源分類体系

分類	レベル	コード	例	
自然	内陸性自然	山	1.00 一山、一峰	
		真 壁	1.01 一高塚、一ヶ原、一台、一平	
		原 野	1.02 一原野、一草塚	
		湖 沼	1.03 一湖沼	
		湖 沼	1.04 一湖、一沼、一沢	
		峽 谷	1.05 一谷、一峽、一渓谷	
		滝	1.06 一滝、一瀑	
		河 川	1.07 一河、一川	
		そ の 他	1.08	
		新	南浜性自然	海 岸
岬	2.01 一岬、一ノ鼻、一崎			
島	2.02 一島、一群島、一諸島、一列島			
岩石・風貌	2.03 一岩、一洞、一岩門、一洞穴			
そ の 他	2.04			
新	生 態 系	動 物	3.00 一生態地	
		植 物	3.01 一名木、一並木、一群落、一自生地	
		そ の 他	3.02	
人	自然現象	自然現象	4.00 一火山、一地震、一噴流、一樹氷、一霧氷、一流水	
		歴史的な人文	史 跡	5.00 一の跡、一遺跡
			社 寺	5.01 一寺、一神社、一神宮、一教会
			城 郭・城郭	5.02 一城、一城跡
			道 路	5.03 一関、一道路、一名道
			歴史的景観	5.04 一の里、一の地
			年中行事	5.05 一祭、一まつり
			神 話	5.06 一神、一怪
			そ の 他	5.07
			文	近代的人文
教 養 施 設	6.01 一博物館、一美術館、一記念館、一資料館、一科学館			
大規模建造物	6.02 ダム、トンネル、橋、高速道路、運河			
都市建造物	6.03 地下鉄、地下街、タワー、新交通機関			
近代公園	6.04 一公園、一庭園、一園地			
農 業 施 設	6.05 一工場、一会社			
農 業 施 設	6.06 一農場、一牧場、一センター			
スノーランド	6.07 一スキー場、一滑水場、ゴルフ場			
レジャー施設	6.08 レジャーランド、自然の家、キャンプ場、休暇村			
娯楽施設	6.09 飲食店、買物街、デパート、競馬場、競輪場			
新	宿泊施設	日 産 産 業 員	7.00	
		交通公社協定	7.01	
		日 本 旅 行 業 会 員	7.02	
		通 関 業	7.03	
		交通施設	交 通 施 設	8.00
			フェリー	8.01
			特急列車	8.02
			観光バス	8.03

3. 観光資源の分布

北海道における自然資源および人文資源（宿泊施設、交通施設を除く）の分布を市町村単位で濃淡表示したのが図-1である。これらの分布を更に中分類で見ると、内陸性自然は道東地方を中心に、海浜性自然は海岸線一円に、そして生態系自然と自然現象は特定地域に偏在していた。また、歴史的人文は道南、道央地方に、近代的人文は都市部に多く見られた。

上記の分布をより広域な支庁単位で集計し比較すると、表-2に示す通り、資源数が最も多いのは網走支庁の235ヶ所所でこれは最も少ない檜山支庁の約3倍に当る。この差は網走支庁が内陸性自然と近代的人文に富んでいるからである。いずれの支庁も（檜山支庁を除いて）自然資源よりも人文資源が多いが、人文資源の大半は近代的人文であり評価の高い資源は少ない。歴史的人文の少なさは北海道の歴史の短さを端的に示しているようである。また、近代的人文の豊富な空知、上川にはそれぞれ北海道の2大都市である札幌市、旭川市があり都市型資源と言えそうである。網走支庁の資源は主に近代公園やレジャー施設である。

以上、北海道の観光資源を市町村単位および支庁単位で見てきたが、本研究で作成したデータおよびプログラムは支庁区域ばかりでなく生活圏区域など任意の区域設定によって大分類、中分類、小分類での観光資源の比較が可能である。特定の地域の資源を種々の観点から検討することで有効な観光行政の資料として活用できるものと思われる。

4. おわりに

本研究では観光資源を量的に分析してきたが、前述した資源の評価を利用して質的な分析に高めることが可能である。また、他地域の観光資源データを収集していくことで我国全体の観光資源の分布特性が明らかになるものと考えられる。

最後に、本研究のデータ作成に尽力された本学卒業生 本間 隆 君に謝意を表します。

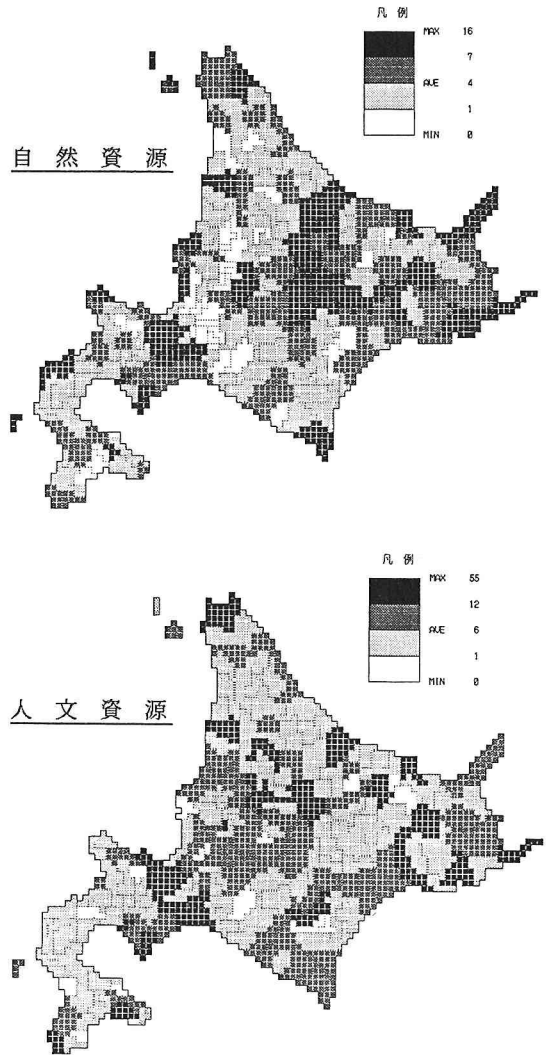


図-1 観光資源の分布

表-2 支庁別観光資源数と構成

< 単位；ヶ所数（％）>

	内陸性	海浜性	生態系	現象	歴史的	近代的	合計
石狩支庁	23 (15)	12 (8)	10 (7)	0 (0)	26 (17)	79 (53)	150
渡島支庁	19 (15)	19 (15)	2 (2)	2 (2)	55 (42)	34 (26)	131
檜山支庁	8 (10)	28 (36)	4 (5)	0 (0)	24 (31)	14 (18)	78
後志支庁	25 (16)	27 (17)	4 (3)	2 (1)	33 (21)	64 (41)	155
空知支庁	32 (19)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	24 (14)	108 (65)	166
上川支庁	54 (25)	6 (3)	6 (3)	1 (0)	26 (12)	121 (57)	214
留萌支庁	14 (16)	14 (16)	4 (4)	0 (0)	10 (11)	47 (53)	89
宗谷支庁	21 (17)	24 (19)	9 (7)	1 (1)	25 (20)	47 (37)	127
網走支庁	70 (30)	25 (11)	15 (6)	0 (0)	20 (9)	105 (45)	235
胆振支庁	36 (21)	22 (13)	5 (3)	0 (0)	34 (20)	72 (43)	169
日高支庁	15 (17)	16 (18)	5 (6)	1 (1)	12 (14)	38 (44)	87
十勝支庁	59 (35)	5 (3)	9 (5)	0 (0)	23 (14)	73 (43)	169
釧路支庁	37 (22)	17 (10)	11 (6)	5 (3)	33 (19)	68 (40)	171
根室支庁	19 (22)	18 (21)	2 (2)	1 (1)	15 (18)	30 (35)	85
資源合計	432 (21)	233 (12)	88 (4)	13 (1)	360 (18)	900 (44)	2026